



秋川市戦没者慰霊碑

場所：中央公民館敷地南側

設置：1977年(昭和52年)

日清戦争から太平洋戦争(大東亜戦争と書いてある)まで、兵士として参戦し戦死した旧秋川市内の方々394名のお名前が刻まれている。太平洋戦争では346名のお名前がある。当時の3つの村(東秋留村、西秋留村、多西村)の合計の戸数は約1800戸であったので5.2軒に1人の割合で戦死者が出たことになる。



五日市線 列車空襲現場



空襲日時: 1945 年

(昭和 20 年) 7 月 28 日

場所: 五日市線多摩川鉄橋(熊川、東秋留間)

列車: 拝島発の 3 両編成、機関車は英国製スチーブソン

乗員乗客: 70 ~ 80 名

概要: 午前 11 時 50 分ごろ(12 時 16 分発との説もある) 拝島駅発五日市行きは空襲警報発令中 拝島駅を出る。熊川駅を出て多摩川鉄橋に差し掛かると、P51 の編隊が現れ、うち 2 機が急降下して襲撃。機銃掃射の銃弾を受けて即死したもの 3 名、重傷者数名、軽傷者不明を出す。襲撃があった後、死者と負傷者は二宮倶楽部に運ばれ、警防団や国防婦人会員らによって手当てを受けた。重傷者は他の病院へ運ばれ、死傷者のうち軍人は所属部隊がきて運び去り、2 名の民間人は玉泉寺の本堂に安置された。



爆弾投下場所

爆撃日時:1945年(昭和20年)7月30日

場所:西秋留駅(現秋川駅)南側付近の油平

襲撃機:米軍機が爆弾投下

被害状況:重傷者1名(その後死亡)

概要:サイレンが激しく鳴り出し、どこともなく飛来した敵機から西秋留駅付近の畑中に爆弾を投下、森田さんは木陰に逃げ込んだが運悪く被爆、内臓が飛び出し、土ぼこりをかぶり無残な姿になった。戸板にのせて家に運んだが…。畑に投下された爆弾の不発弾が処理されたのは30年後のことであった。



海老沢寮跡

空襲日時: 1945年(昭和20年)7月28日

場所: 引田635番地、海老沢寮

(学童疎開の收容施設で、40名が宿泊)

襲撃機: 米軍艦載機のP51 ムスタングが機銃掃射

被害状況: 死亡児童1名、負傷児童3名

概要: 11時過ぎ、ラジオから「空襲警報発令! 相模湾方面より飛来せる敵P51の編隊が東京周辺を攻撃中」。しかし一向に来襲の気配がない。空襲解除かと思っている頃、突然北東から急降下してくる敵機。海老沢寮の藁葺屋根を突きぬいた銃弾は学童疎開児童(小学5年生)の頭部を吹き飛ばした。



引田の陸軍倉庫跡

場所: 日の出町平井三吉野井戸端・油田

およびあきる野市伊奈中原

規模: 3万坪の敷地に40数棟延べ面積4千坪

概要: 設置期間は1944年(昭和19年)前半から1948年(昭和23年)までの4年半で、陸軍立川航空廠によって、米軍による立川の陸軍航空廠等の軍事施設への空爆から、軍用航空資材を疎開させて保管・供給するため設置されたと考えられる。



横沢入の地下壕と戦車橋

場所: あきる野市横沢。武蔵増戸駅と武蔵五日市駅の中間の北側にある沢部と丘陵部、面積約 65ha の地域。

地下壕: 本土決戦に備えて、陸軍航空廠によって掘られた資材の格納・秘匿のための壕で 27 ヶ所(他に砂沼地区に 8 ヶ所)ある。壕は斜面を掘りこんで屋根をかぶせた半地下壕が多くあった。壕の大きさは間口 2 間・奥行 5 間半・高さ 1 間半から 2 間が多く見られた。設置は 44 年 11 月以降 45 年 2 月、掘った部隊は増戸小学校に本部を置いた陸軍東部 64 部隊のおよそ 100 人。

戦車橋: 横沢川に架かる 2 つの橋。鉄板で組まれた頑丈な戦車の車体シャーシで作られており戦車橋と呼ばれている。後の調査で、牽引車であることが判った。戦後、農家が生活道路の整備のために、壕の装備を持ち出して橋の補強に使ったといわれている。



「青い目の人形」

場所：戸倉小学校

背景：青い目の人形は、昭和2年に、アメリカ合衆国から日本の小学校などに贈られた人形で、当時は「日米親善の象徴」であったが、太平洋戦争末期には「敵国の人形」として、子どもたちに竹槍で突かれたり、火あぶりや、なぶりものにされて処分された。しかし心ある人が処罰を覚悟で人形を隠した。贈られた約 12,000 体のうち、現存数は約 300 体。上級生の命令で人形を踏みつけた体験を持つ清水さんは、子どもたちをそのように仕向けた当時のマスコミと教育の怖さを話してくれた。戸倉小で勇気ある人に隠された人形が発見されたのは 1980 年のことであった。

あきる野市内の戦争の記憶(戦跡)



市内の戦跡の主なものは、終戦まで 20 日足らずの時期に、米軍の空襲によって 6 名の死者を出した 3ヶ所と、その空襲の要因の一つと見られる陸軍倉庫跡や壕などです。市内の軍事施設はこのほかに昭和飛行機雨間分工場(資材置き場)がありましたが、資材や機材は、民家の土蔵などにも隠されていました。当時のあきる野市が空襲をほとんど受けなかったのは、多摩川を越えた旧 3 村が純農村地帯で、軍需工場も資材置き場程度であったからと思われるが、終戦の年の 1945 年には次の地区が空襲を受けました。

- 2月17日:五日市留原、
- 4月4日:西秋留村、
- 7月28日:東秋留村・西秋留村、
- 7月30日:西秋留村、
- 8月10日:多西村

このパネルは、「あきる野9条の会」が催行した「バスで行くあきる野市内の戦跡めぐり」(1/22)で撮った写真をあきる野原水協が作成したものです。文は「秋川市の戦争体験を語りつく 総集編」(1997年発行)、「横沢入の戦争遺跡調査報告」(伊奈石の会会誌「伊奈石」第4号別冊2000年発行)、秋川市遺族会誌などから引用させていただきました